

2017年3月12日

## 福音書からのメッセージ

イエスは答えて言われた。「はっきり言っておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」

(ヨハネによる福音書 3章 3節)

今日の福音書には、一人の人が登場します。彼はファリサイ派に属するユダヤ人たちの議員でした。そのことからニコデモのことを、イエス様に抵抗する者としてとらえることもあるようです。しかし本当にそうでしょうか。

ファリサイ派の人は、神さまから与えられた律法をきちんと守ることで、神さまの前に自分の力で正しい者となろうとしました。また罪だけでなく、罪人と呼ばれる人たちと自分たちを分け隔て、関わることもしませんでした。

ところがイエス様は罪深い人に手を差し伸べ、罪人と共に食事をされます。ファリサイ派の人たちには、それが信じられませんでした。会堂で教えるような人が、罪から自分の身を守らずに生活している。そのことがどうしても理解できなかったのです。

そのファリサイ派の一人であるニコデモは、ある夜、イエス様のもとに来ます。彼は人目を避けて来たのでしょうか。ファリサイ派の人たちにも、イエス様のうわさは伝わっていたと思います。しかし彼らは、素直に話を聞きに来ることが出来ませんでした。なぜなら、自分たちこそ神さまが与えてくださった律法を正しく解釈し、守っていると自負していたからです。しかしニコデモは、人々の目から隠れながらイエス様に会いに来ました。

ニコデモはイエス様が福音を伝え、人々に寄り添っていく姿を見ます。そしてその教えと行動は、自分が今まで学んできたこととはまるで違いました。律法を忠実に守



ることで、神さまの前に立てるものになれると思っていたニコデモは、イエス様の出現によって、自分の生き方に疑問を持ったのかもしれない。

わたしたちは今、この二人の会話を、どのように聞いているのでしょうか。ニコデモは必死でした。何とか自分が神さまの前に正しく生きていくことができるように、そして神の国に迎え入れられるように、その思いで必死にイエス様にヒントを求めていきました。そしてその答えは「新たに生まれる」ということでした。

「新たに生まれる」の、「新たに」という語は「上から」と訳すこともできる言葉です。「上から生まれさせられる」。ニコデモは何とか自分の力で神さまに近づきたかったのだと思います。しかし新たな生は神さまから一方的に与えられるものです。

わたしたちは自分の力で神さまの救いを得るものではありません。神さまからの一方的なお恵みによって、見捨てられても仕方のない、どうしようもないわたしたちが、目を掛けられたのです。そして生きる者とされるのです。

わたしたちを生かすために、神さまはイエス様を与えてくださいました。そのイエス様の十字架によって、わたしたちは新たにされるのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>